

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

「全農岡山県本部
ミートセンター」竣工
(岡山県本部)

4-5面

全農グループ会社探訪
ZMクロッププロテクション(株)
(広報・調査部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



提供：鳥取県本部



全農グループ

食と農を未来へつなぐ。

News!



「全農岡山県本部ミートセンター」竣工

新拠点で岡山県畜産物の安定供給を目指す

岡山県本部



テープカットで竣工を祝う関係者

県本部では、食肉販売事業で生産から加工まで系統一貫体系を確立しており、新たな中核拠点として、同センターを建設しました。県内唯一の系統畜産加工場として機能した旧センターは築40年以上が経過し、設備が老朽化。新センターでは作業効率向上を図るほか、加工食品を自社製造できる設備を新規導入し、製造経費の削減や取扱数量の拡大、収益改善を目指します。

岡山県本部は、新たな肉の加工工場「全農岡山県本部ミートセンター」を岡山市に建設し、4月17日に現地で竣工式・落成披露式を行いました。新しい加工食品製造設備を導入し、総菜・加工食品事業の拡大を目指します。



新ミートセンター外観

岡山県では「おかやま和牛肉」をはじめ、数々の地元ブランドを確立。同センターでの加工品の自社製造を通じて、特徴のある県産ブランドの販売強化や、安定した生産物の集荷による生産者の手取り向上も期待できます。

岡山県本部の青江伯夫運営委員会会長は、「本センターを拠点として岡山の畜産がさらに盛んになることを期待したい」と話しました。

News!



千葉ロッテ冠協賛試合で県産米PR

「いわて純情米消費拡大月間」キックオフ

岩手県本部

県本部は千葉ロッテマリーンズのオフィシャルスポンサーであるとともに、同球団所属で岩手県出身の佐々木朗希選手を「いわて純情米」アンバサダーに起用しています。

試合日は「し(4)ず(2)く(9)」の語呂合わせで県オリジナル品種米「銀河のしずくの日」であることから、入場ゲートで先着2万人に「銀河のしずく」のバックごはんや、佐々木選手のオリジナルグッズをプレゼントしました。

試合直前には球場でセレモニーを行い、岩手県本部の伊藤清孝運営委員会会長から千葉ロッテマリーンズの吉井理人監督へ「銀河のしずく」429キを贈呈しました。伊藤会長は「一度食べてもらえば、おいしさには自信がある。全国の方に『銀河

岩手県本部は「いわて純情米消費拡大月間」のキックオフイベントとして4月29日、千葉市のZOZOマリンスタジアムで開かれた千葉ロッテマリーンズの試合に「銀河のしずく」岩手のひとめぼれデー」として冠協賛しました。

のしずく』を知ってもらいたい」と期待を寄せました。

さらに始球式では、達増拓也岩手県知事がファーストピッチを務め、会場を盛り上げました。



伊藤会長(中央)から千葉ロッテの吉井監督(右から3人目)へ「銀河のしずく」を贈呈



経営管理委員・荒川隆氏が特別基調講演

食料・農業・農村政策や農協系統の在り方について提起

広島県本部

講演をする経営管理委員の荒川氏



今回の特別基調講演は、今年1月にJA広島中央会主催で行われたJA常勤役員研修での講演をきっかけに、広島県本部と子会社の役員74人を対象に実施しました。

講演では、食料・農業・農村に関する現状分析を踏

まえ、現在国会で「農政の憲法」とされる「食料・農業・農村基本法」の一部を改正する法律案が提出される中、JAグループは「持続可能な食料システムを行政などと連携・構築し、成果も負担も分かち合う」ことが重要であると提起されました。

参加した県本部職員からは、「行政と連携し、地域の総合事業を生かしたコーディネート」としての機能を果たしていくことが重要」「真の自給率を高めていくためには、他国に依存している飼料や肥料原料を国内で生産、あるいは国内肥料資源を活用していくことが重要」など、具体的な意見が寄せられました。



県内小学5年生へ食農教育補助教材贈呈

下敷き、パンフレット、「あきたこまち」40周年特別冊子

秋田県本部



小学5年生と特別支援学校の児童・生徒に贈る食農教育補助教材

贈呈した下敷きには、県内の米の収穫量や銘柄の紹介と県内の主な青果物を紹介した「青果物マップ」を掲載。パンフレットでは、日本の食料自給率や食品ロスの問題に対して、子どもたちが日頃の食生活で実行できる事例を「SDGs」と関連付けて紹介しています。

また、今年度は「あきたこまち」の40周年を記念した特別冊子を作製し、米作りの学習で活用できるよう「あきたこまち」の誕生から、米作りの流れ、米作りで守られる環境についても詳しく掲載しています。

秋田県本部は、2006年度から小学生向けの食農教育補助教材を作製し、県内の小学5年生と特別支援学校の児童・生徒に贈っています。今年度は4月10日に椎川浩県本部長とJAバンクあきたの大友一仁副支店長が秋田県庁を訪れ、補助教材を猿田和三副知事へ贈呈しました。



椎川県本部長(左)と猿田副知事(中)、大友副支店長

全農グループ 会社探訪

ZMクロッププロテクション(株)

全農の農薬を世界の農業・非農耕地に 原体製造量を増やし製造コスト低減へ

ZMクロッププロテクション(株)(略称ZMCP)は全農と三菱商事(株)の合弁会社で、農薬事業における両者の機能の二部を移管する形で設立されました。2018年4月に事業を開始した比較的新しい会社です。

【広報・調査部】



パートナー会社であるT.J.C.ケミカル社(タイ)の工場にて



国際シロアリ学会(フィリピン)での発表の様子

農薬の海外向け開発・販売 現地パートナー会社と協力

ZMCPの主な業務は、

- ①全農が権利を保有する農薬原体の国内非農耕地(ゴルフ場、衛生害虫防除など)および海外向けの開発
- ②全農原体の製造・登録業務
- ③自社剤の国内・海外向け開発と販売
- ④国内メーカー品農薬の輸出事業

海外向けの開発では、全農が権利を持つ除草剤「オキサジクロメホン(MY-100)」と「デフリルトリオン(AVH-30

1)」、殺虫剤「ジクロロメゾチアズ」について、東南アジア、インド、北米・中南米などに向けて開発を進めています。

同じ作物でも国・地域によって栽培方法や農薬の登録要件が異なるため、これらの情報を収集し、各国の現地パートナー会社と協力して展開しています。

MY-100剤はすでに中国、韓国、タイで販売していますが、本年2024年インドネシアとトルコでも新たに登録を取得し、販売に向けて準備を進めているところですが、既存の剤が効かなくなった抵抗性の雑草に効果があることから今後の普及が期待されます。

INI IKLAN RACUN MAKHLUK PEROSAK

SAPROL® DC

Racun Kulit Sistemik untuk Mencegah dan Merawat Penyakit Kulit

Jika ada pertanyaan, hubungi:

CROP PROTECTION (M) Sdn. Bhd. 187801030900 (03032-H)

MS ISO 9001:2015 MS ISO 14001:2015 ISO 45001:2018

Lot 746, Jalan Haji Sirat, 42100 Klang, Selangor Darul Ehsan, Malaysia.

Tel.: + 603-3396 2370 Faks: + 603-3396 2379 E-mail: sales@cropp.com.my

海外で使用されている「サプロール剤」のチラシ



キルパー剤処理によるキュウリの古株枯死の様子。左がキルパー剤処理前、右がキルパー剤処理7日後

「キルパー」「サプロール乳剤」 原体メーカーとして登録

国内でも販売している「キルパー」「サプロール乳剤」はZMCPが原体メーカーとして登録している剤です。

「キルパー」は2023年に当時の登録メーカーから登録移管をうけ、現在はZMCPが

このように、海外で登録、販売が進み需要が増加すれば、原体製造量が増え、製造コストの低減につながる可能性があり、結果として日本の生産者にも寄与できるため、安定的に低コストで製造ができるよう全農と連携して取り組んでいます。

小回りの良さと経験を生かし 日本農業や農家組合員に貢献

ZM Crop Protection株式会社

代表取締役社長
住田 明子氏

当社についてご存じない方も多いと思いますが、この紙面を通じて知っていただけたらうれしく思います。

ZMCPの事業である農薬原体の製造コスト削減やシロアリ剤の開発により、少しでも日本農業や農家組合員様の生活に貢献できれば、と考えています。

シロアリ剤は発売2年目ですすでに推定10%を超える業界シェアとなりました。さらに、業界トップシェアを目指して取引先様や全農くらし支援部と協力して推進しているところです。

全農グループが自信をもってお薦めするシロアリ剤「ネクサス®Z800」「デンバSC®」をぜひご指名ください。

創立7年目、従業員約30人の新しい小さな会社ですが、小回りの良さと農薬の開発、製造のエキスパートである社員の豊富な経験を生かして、いろいろな分野にチャレンジします。これからの成長を期待してください。



運動的な効果発現と驚異的な伝播性能の相乗効果で優れた防蟻性能を発揮します。
活動範囲が広く、コロニーの個体数が多いイエシロアリの駆除剤としても最適です。

グルーミング行動で薬剤が伝播

会社の概要（2024年5月1日現在）

- 本社所在地** 東京都千代田区内神田1丁目2番10号 羽衣ビル8階
- 事業内容**
 - 全農保有原体の海外向けおよび国内非農耕地向け展開
 - 全農保有原体の製造支援・登録業務
 - 自社剤の開発・販売
 - 本邦メーカー品農薬の輸出業務
- 設立年月日** 2017年11月1日（2018年4月1日事業開始）
- 代表者** 代表取締役社長 住田 明子
- 従業員数** 31人

公式ホームページ
はこちら



<https://www.zmcp.co.jp/>



シロアリについて



メタミサルトについて

シロアリについて解説した
YouTube動画も作成

調達、登録維持などを行っています。
古い剤ですが、ZMCPではキルパー剤ならではの使用方法として「古株枯死」という使用法の普及に力を入れています。
「古株枯死」は、作付け終了後にキルパー剤を灌水処理することで作物を枯死させ、作物に寄生した病害虫を防除、圃場をリセットする手法です。土壌中のネダニやネコブセンチュウの蔓延防止、コナジラミなどの防除、前作の作物を枯死させることで撤去作業が軽減できるという利点があります。
「サプロール®乳剤」（原体名トリホリン）は、主にバラの黒星



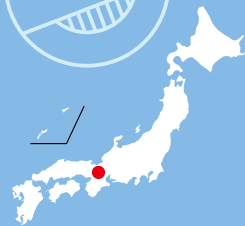
全農グループが販売するシロアリ剤
「ネクサスZ800」「デンバSC」

病やうどんこ病、菊の白さび病など花き栽培の殺菌剤として、国内だけでなく中南米や東南アジアでも使用されています。

日本では、23年に「花き類・観葉植物」に適用拡大。今後は、果菜類でも使用できるよう作物、使用方法などの適用拡大に取り組んでいます。また5月からは、単剤として「セーフガード®乳剤」の商品名でも販売を開始します。
**伸びるシロアリ防除剤
安全性高く、環境にやさしい**
3月に「フィールドマスト®」が国内農業用の殺虫剤として登録されましたが、同剤はすでにシロアリ防除剤（愛称「メタミサルト®剤」）として22年からZMCPで開発、販売をしています。既存のシロアリ剤と比較して伝播効果※が高く長期の防除効果が期待で

きるだけでなく、人畜への安全性が高く、環境への負荷も少ないという特長を持つ剤です。同剤を全農のくらし支援部と協業して推進しており、各地の防除業者で使用が拡大しています。
今後も、世界の農業場面や、非農耕地・衛生害虫の防除においてZMCPの薬剤が役に立てるよう尽力するとともに、日本の農業にも貢献できるように社員一同取り組んでいきます。

※メタミサルト剤に接触したシロアリが蟻道を徘徊したり、他のシロアリと接触したりすることで、次々とシロアリの巣またはコロニー全体へ有効成分が伝播され、効果を発揮すること。



開設50周年、期待される茶市場を目指す

宇治茶の生産振興・消費拡大、世界発信へ

京都府本部は府内で唯一の茶市場を開設・運営しており、2024年4月1日で50周年を迎えました。22年には「宇治茶流通センター」を稼働し、宇治茶の流通一大拠点として、荒茶販売から冷蔵保管、物流を一手に引き受けることでトータルコスト低減につなげています。

京都では鎌倉時代から、特に宇治市などの南部地域を中心に「宇治茶」が栽培されてきました。お茶は健康飲料として古くから親しまれており、ビタミンや食物繊維はもちろんのこと、主成分であるカテキンはさまざまな効能・効果

があります。

さらに近年の世界的な日本茶ブームに加え、昨年5月に新型コロナウイルスの5類移行に伴う人の流れの回復により、インバウンド需要・輸出拡大が追い風となっています。

全ての荒茶の生産履歴開示 茶市場の入札会場を拡大

京都府本部の茶市場は、01年に「荒茶入札販売システム」を稼働し、開票作業のスピードアップを実現しました。また、消費者の食に対する安全・安心を求める声や産地偽装問題により03年からは「宇治茶生産記録簿開示（トレーサビリティ）」を導入し、京都府で生産される全ての荒茶販売において生産履歴の開示に取り組みしました。

「宇治茶流通センター」の茶専用冷蔵



香りや色つや、手触り、お茶の味を見極める茶商ら

庫は広さ2000平方メートル、高さ23・5メートルで、専用コンテナによる自動格納式を採用し、もみ茶換算で2000トンが収納可能です。出荷作業を行う荒茶荷さばき場は1300平方メートルで、1日50トンが出荷可能です。茶市場もセンター内に移転し、従来の1・8倍の600平方メートル、荒茶750点を同時展示できる入札会場を備えています。

生産者向け管理システムで 出荷や書類作成などを支援

京都府の宇治茶は「玉露」や「てん茶」など高級茶の生産が多いことが特徴で

すが、近年宇治茶の生産量は減少傾向にあり、荒茶の生産振興、生産量の維持拡大が課題となっています。

そこで21年より、生産者向けの宇治茶生産管理システムを導入。防除・施肥などの圃場管理をシステム化することによって出荷に必要な生産履歴や出荷伝票など荒茶出荷に必要な書類作成時間を短縮し、生産者の省力化を支援しています。

今後も宇治茶の生産振興と消費拡大、世界への発信に取り組み、茶市場のさらなる取り扱い拡大と市場機能の強化に努め、期待される市場を目指します。



茶園に覆いをかぶせて栽培することにより、柔らかな新芽のうまみを多く含んだ茶となる



セルリー100周年式典であいさつする百瀬部会長

J A信州諏訪は長野県の南東部に位置し、諏訪地域全域の3市2町1村（岡谷市・諏訪市・茅野市・下諏訪町・富士見町・原村）で構成され、八ヶ岳の西麓地域の冷涼な気候を生かした高原野菜や花きの生産が盛んです。

セルリーはJ Aの主力農産物で、夏場に国内に流通する約9割を栽培しています。管内での生産は1922年に茅野市で試作したのが始まりで、戦争による栽培禁止や生産者同士の対立、組織の分裂といった混乱期を乗り越え、栽培100年の節目を迎えました。J A信州諏訪の野菜専門委員会セルリー専門部会は2月14日、諏訪市のホテル紅やで「セルリー100周年記念式典」を開催。生産者、J A・行政・農業関係者、輸送・市場関係者ら116人が出席しました。式では、部会が制作した「セルリー100周年記念誌」を

夏場のセルリートップ産地 国内流通の9割生産

お披露目し、配布。記念誌はA4判フルカラー60ページで、2004年の「諏訪野菜のあゆみ」以来、約20年ぶりの発刊となりました。内容は栽培品種の変遷や、現在の生産から出荷までの流れ、セルリーに関する出来事と同時期のJ Aの状況や社会情勢を並べ



記念誌を手にする百瀬部会長(右)と記念誌編集委員のJA営農部の五味有係長

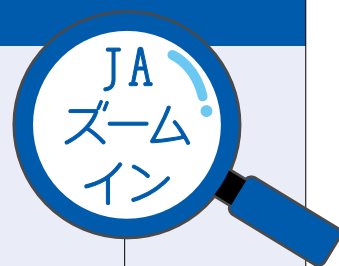
令和5年度長野県園芸特産振興展品評会表彰式 令和5年度長野県園芸特産業関係功労者表彰式



部会代表で長野県園芸特産業関係功労者の表彰を受けた百瀬部会長

また、式典では部会が長野県セルリーの生産振興に大きく貢献したとして昨年11月、長野市で長野県園芸特産業園芸特産業功労者表彰も

関係功労者の表彰を受けたことも報告しました。百瀬勝彦部会長は「現在、農業を取り巻く環境は厳しいが、負けてはいられない。50年後、100年後の後世に日本一のセルリー産地を継承できるよう栽培に励んでいく」と決意を新たにしました。



セルリー栽培100周年で式典 記念誌で日本一への軌跡たどる

J A信州諏訪 (長野県)



概要 2024年2月29日現在

正組合員数	8393人
准組合員数	1万4278人
職員数	518人
販売品取扱高	88億3千万円
購買品取扱高	39億1千万円
貯金残高	2730億2千万円
長期共済保有高	5713億5千万円
主な農産物	セルリー、 ダイコン、キャベツ、ズッキーニ、ブロッ コリー、パセリ、トウモロコシ、花き

ニッポンエール×ブルボン 第2弾“愛媛県産紅まどんな味”新発売 ブルボンの人気商品「フェットチーネグミ」とコラボした限定商品

全農は、(株)ブルボンと連携し、「ブルボン×ニッポンエール フェットチーネグミPREMIUM愛媛県産紅まどんな味」を共同開発しました。5月28日から全国のコンビニエンスストア・量販店などで販売します。【営業開発部】



ブルボン×ニッポンエール

フェットチーネグミPREMIUM愛媛県産紅まどんな味

「ブルボン×ニッポンエール フェットチーネグミ愛媛県産紅まどんな味」は、JAえひめ中央が供給した愛媛県産「紅まどんな」(愛媛果試第28号)果汁を使用し、果汁感のある「フェットチーネグミ」のPREMIUM仕様としました。

「フェットチーネグミ」はイタリアンパスタ「フェットチーネ」のような形状で、少し硬めのアルデンテな噛みごちが楽しいグミです。「紅まどんな」の特徴であるジューシーで濃厚な甘みを最大限に表現できるよう果汁を約5%使用しています。

全農とブルボンは、今後も特徴ある国産果実を使用した商品開発を進めていきます。

低脂質・高タンパクのスキムミルクで 簡単に栄養補給 マッスル・ベーカリーを 1日限定オープン

全農はスキムミルクの利用促進を目的として、3月29日の金曜日の「筋肉の日」に合わせ、マッチョが低脂質・高タンパクのパンを無料で提供する、マッスル・ベーカリー「スキムミルク・デ・パンプアップ」を1日限定でオープンしました。【酪農部】

年末年始などの生乳不需用期は、生乳を長期保存できるバターとスキムミルク(脱脂粉乳)に加工し、生乳が余ることのないよう、需給調整しています。しかしバターの需要は堅調な一方で、スキムミルクの消費は低迷しており、需要拡大が課題となっています。

そこで全農では、東京・恵比寿の製菓・調理専門学校のバンタン東京校で、スキムミルクを使用し、筋肉の形に成形した「マッスルパン」を数量限定で無料配布し、スキムミルクの利用促進を図りました。好評につき今後もマッスル・ベーカリーの展開を検討中です。



金曜日の29日「筋肉の日」にちなんで低脂質・高タンパクのスキムミルクを使用した「マッスルパン」を無料配布



スキムミルクのサンプルを配布する
福島県の酪農家・清水大翼さん



味が自慢のJA江刺

豊かな自然の中、太陽の光をたっぷり浴びて育った岩手県の江刺りんご「サンふじ」。その素材の風味を生かした濃縮・還元をしていない100%ストレートのジュースです。

砂糖を一切使用していないのに、酸味が少なくコクのある濃厚な甘味が特長です。まるでジューシーな生のリンゴを食べているような味わいをお楽しみいただけます。

ぜひ冷蔵庫でしっかりと冷やしてお召し上がりください。缶には江刺の風景や行事がにぎやかに描かれています。



日光熟成 江刺りんごジュース (30缶)
江刺産サンふじ使用……3618円(税込み)

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから

